



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとなの 医療センター

アートプロジェクト

ー今月のショットー



平成26年度 看護学校卒業生のみなさんより、患者さんへのメッセージギフト



感謝状を受け取る
山西 勤 氏



ボランティアさんから
患者さんへのギフト



木彫作家 ローマ・ルカさん御一家
寄贈木彫作品 ガリレオ・アネッロの前で



書道ボランティア 樋笠
さんよりイチゴのギフト



嬉々として作品に触れる
某職員

かなりお疲れ
の様子・・・

2015年 2月号

ー院内の小さな声からー

ローマさんの奥様が、玉のようにつやつやと輝く息子さんを抱っこしながら話してくださいました。「2年前に香川小児病院で上の子を亡くしました。あの時は本当に悲しかった。ある日病院で、廊下の隅にある小さなイスを見つけました。そのイスには扉がついていて、なんだろうと思ってそこを開けると、小さなプレゼントが入っていたんです。メッセージカードがついていて、『見つけてくれてありがとう。』と書いてありました。こちらこそ。ありがとう。と思いました。そして、私の次の人にもこのプレゼントが届くように。と、またプレゼントを扉の中に戻したんです。」そのメッセージを書いたAちゃんがボランティア感謝会に参加していました。なんて素敵な神様のおはからいだろう。と感激しました。ローマさんの作品アネッロは「輪」という意味で、循環する自然や人のご縁を表現しているそうです。ローマさんのその想いは上のお子さんがいたからこそ結晶化し、こうして当院にやって来てくれたのかもしれないと思いました。そして、Aちゃんの始めたメッセージギフトは、今日もまた、病院の片隅でそっと誰かを励ましているかもしれません。

第1回ボランティア感謝会

2月27日、平成26年度第1回ボランティア感謝会が、5階会議室において開催されました。日頃当院でのアートボランティア活動にご尽力くださっている皆さん21名をご招待して、当院におけるアート活動の意義について、また日頃の活動の様子などをご報告させていただきました。会のはじめには、旧小児病院の時からカメラマンとして様々なイベントを記録してくださっている山西勤氏と、この度、御自身の木彫作品ガリレオ・アネッロの2作品を御寄贈くださったローマ・ルカ氏に対して、伊藤副院長より感謝状が送られました。ローマさんの作品は楠でできており、当院に寄贈して下さることになったエピソードを奥様よりうかがって改めて深いご縁を感じました。「みんなに触って遊んでもらえると嬉しい」と話されるローマさんのお言葉に添うような展示が出来るよう、安全面にも配慮しつつ設置場所を検討したいと思います。

今回、感謝会に参加された皆さんは初めて顔を合わされる方がほとんどで、はじめは緊張した面持ちでしたが報告が進むにつれて、「病院を患者さんにとって少しでも居心地のいい場所にしたい」という同じ志を持ちながら、今の自分にできることを模索している同志なのだと思いき、お互いを身近に感じられたようでした。最後に感想を話して下さった数人のボランティアさんは「病院の中にアートが自然にやさしく取り込まれている事に感動した」「他のボランティアさんがどんな風に活動しているのか知る事が出来てよかった。」「これからも自分にできることを探してお役に立ちたい。」「涙ながらに語って下さる方もいて、こちらも胸が熱くなりました。また、開院以来、全国各地から途切れる事なく届く、あみぐるみやしりとり絵本、切り絵や便せん、ポストカード、手作り絵本、などを制作して下さるものづくり応援部隊の皆様にもこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



今月の一枚

作家:HNNA 「あるひ」

もともと「人」は同じ「モノ」を何回見ても、それを見た場所、時間、天気、その日の気分や出来事によって微妙に感じ方が変わるものです。今回は病室に飾られるとのことなので毎日同じ場所から同じ絵を見ても表情の違う絵になるように「人」の意識の拡張を少しだけ手助けする「絵」に仕上げました。